絅斎（けいさい）書院100周年

絅斎書院の建設

新旭町太田出身の儒学者である浅見絅斎の教えを伝える絅斎書院は、大正11年（1922）に発足した「絅斎先生遺徳顕彰会」らの働きかけによって、大田神社参道西側に建設が進められ、2年後の大正13年4月13日に落成式が挙行されました。建物は、現存するとおり木造平屋建て、入母屋造り、桟瓦葺き、桁行5間の平入で、正面に切妻の玄関が付加されています。建設費用には旧高島郡町村の拠金のほか、一般有志からの寄付金が充てられました。

絅斎書院

絅斎の学問

浅見絅斎は、名を安正、字名を重次郎、号を絅斎といい、若い頃は高島順良とも名乗っていました。承応元年（1652）8月13日に太田村の浅見道斎の次男に生まれ、幼い頃から大志を抱き、学問を好んだので、父が兄の道哲と共に医学を学ばせたと伝わります。25歳頃、京の儒学者・山崎闇斎に師事し、厳しい指導のもとで学問に励み、闇斎門下を代表する弟子の一人に数えられるようになりました。また自らも京の自宅に錦陌講堂（きんぱくこうどう）を開き、門弟を育てると共に、30歳頃からは本格的に著述を始め、最終的には100点を超える著作を残しました。中でも中国の忠臣八義士の略伝や遺言を取り上げた『靖献遺言（せいけんいげん）』は、頼山陽、梅田雲浜などの儒学者や吉田松陰、橋本左内ら幕末の志士たちにも大きな影響を与えました。

絅斎の学問は、師である山崎闇斎の朱子学至上主義や垂加神道の考え方を踏まえた上で、自らの道徳的理念に基づき朱子学的合理主義を徹底したもので、絅斎はその教えを多くの書に編著する中で、学者として広く認められるようになっていきました。

絅斎書院保存会の設立へ

没後200年にあたる明治43年（1911）、絅斎に従四位が贈られ、翌年4月13日には太田の区長事務所内に置かれた太田望楠書院において二百年祭並びに贈位奉告祭が行われました。その後は毎年4月13日に例祭が行われるようになり、前述のとおり大正13年（1924）には絅斎書院が建設され、以降はこの場所で例祭が行われるとともに、絅斎の遺品を保管し、教えを伝える場所として、地域有志の皆さんに守られ続けてきました。

昭和52年（1977）には、地域住民らを会員とする「絅斎書院保存会」が発足しました。現在も保存会の事業として4月13日の祭典、書院の整備、京都鳥辺山の絅斎墓所の墓参などが続けられています。

絅斎書院保存会ホームページ

問 文化財課 ☎（25）8559

編集雑感

出会いや別れの季節となる時期がやってきました。この春から新しい環境になる方も多くおられると思います。高島市は市制20周年を来年の1月に迎えることになり、今回の4月号から市制20周年の冠が付いたイベントがいくつか登場してきます。今後もさまざまな20周年関係のイベントが予定されていますので、ぜひ参加していただき、一緒に高島市を盛り上げていきましょう！（K）

広報たかしま 令和6年4月号 No.291
発行▼高島市　編集▼政策部企画広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740（25）8000㈹
https://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用。